

かたらい

第43号

平成30年
11月

地域防災力を高める5校区合同避難所運営訓練

いつどこで起こるか分からない災害。東日本大震災や熊本地震などの大規模災害の教訓を踏まえ、早良区は、平成30年10月27日土曜日に、女性や子育て世帯の視点を活かした「避難所運営訓練」を、女性や6歳未満の未就学児の割合が高い百道浜、西新、百道、高取、室見校区の北部5校区合同で実施しました。

避難所生活は、慣れない食事、足りない生活用品など、物資や生活の両面で様々な困難が想定されます。実際に東日本大震災などの経験やデータから、災害時には「女性ならではの」不安や困難がたくさんあることがわかっています。災害時に冷静に適切に行動できるよう、平常時の真剣な避難所の訓練を実施し、市民一人ひとり、そして区全体の防災力のアップを図りました。

訓練の主な内容

誰もが安心できる避難所づくり

- ★間仕切りを使って居住スペースを確保
- ★更衣室・授乳室の設置
- ★物資スペースの設置

子育て世帯に役立つ情報がいっぱい

- ★レジ袋とタオルを使った「簡易おむつ」づくり
- ★ダンボールの簡易ベッドづくり



避難所運営訓練を終えて

今回の訓練は、女性目線の避難所運営をテーマに、「防災ママカフェ」を全国展開している「かもんまゆ」さんに、ママ友を活用した避難方法や被災時に役立つ防災ママバッグを紹介いただきました。また博多あん・あんリーダー会による段ボールの簡易ベッドの作り方やロープワーク（もやい結び）、早良区ヘルスメイトさんによる災害食のレシピ紹介、福岡歯科大学の山口氏による災害時の口腔ケアの説明などを行いました。

避難所運営は「ストレス」をいかに減らすかが重要です。ぜひ積極的に地域の避難訓練や防災講座に参加していただければ幸いです。



博多あん・あんリーダー会
早良支部長 松本 一郎さん

5校区合同避難所運営訓練に参加して

間仕切り方法やダンボールベッドづくり、防災グッズ紹介や備蓄のお話など満載でした。防災を日頃からしっかり意識する「心がけ」が大切だと改めて実感しました。

防災を考える上で女性や子育て世帯への配慮など大変参考になりましたが、男女共同参画組織は参加機関に加わっておらず残念でした。我々男女協は、もっと地域で男女共同参画の視点に立った防災の発信に努めていかなければ、と反省した防災訓練でした。面識のなかった校区の方ともお話ができ、これを機に地域みんなが親しくなり、共助の輪が広く強くなった気がしました。これも防災訓練の効果だと思います。

(高取校区 一坊寺 優子)

博多あん・あんリーダー会の紹介

自らを守る「自助」と、地域住民の力による「共助」を基本理念に、公民館や小中学校等での防災講座や防災イベントの開催・支援活動など、地域に密着した災害への「備え」や「気づき」を伝える防災啓発活動を行っています。

各校区の男女共同参画推進組織の皆さまとも、連携できれば幸いです。ぜひお声かけください。



<https://www.hakata-anan.org>

男女共同参画週間「みんなで参画ウィーク」

11月3日から9日は、市内各校区で一斉に「男女共同参画」に関する啓発や広報活動を実施し、地域・家庭・職場・学校などで男女共同参画を考え、推進の機運を盛り上げる「みんなで参画ウィーク」でした。早良区の各校区でも、男女共同参画を推進するためのさまざまな取り組みが行われました。啓発や広報にご協力いただき、ありがとうございました。

飯倉中央校区の「みんなで参画ウィーク」

10月20日(土)と31日(水)に公民館、社会福祉協議会と共催して、「住み慣れた地域においてみんなで支え合うには」をテーマに認知症サポーター養成講座を実施しました。

第1回目…映画「徘徊」を見ての意見・情報交換。

- ◎ 男性が積極的に「介護」に関心を持ち、関れる仕組みづくりに向けて、男女共同参画の視点の大切さを再確認しました。

第2回目…「認知症の方への接し方について」

米倉せつ代さん(ケアマネジャー)の講話と寸劇、グループワーク。

- ◎ 正面から目を見て話す大切さ。(アイコンタクト) ◎ 自分の名を名乗る。(不安を取り除く) ◎ 笑顔で優しく接する。(ストレスを感じさせない)
- ◎ 一定の距離を保つ。(様子を見守る) など

地域で介護を進めていく上で、日ごろから互いの顔が見える関係づくりに努めることは大切ですが、この養成講座を通して、また少し、地域住民のお互いの距離が近くなった気がしました。

(飯倉中央校区 東いすみ)



第1回目



第2回目

入部校区の「みんなで参画ウィーク」

入部校区は参画ウィークに先立ち、9～10月にかけて、男女協による主催事業や、校区の行事の中で男女協の取り組み等を発信し、アピールしました。

- 10/7(月) 校区運動会において男女協メンバー全員でパレード。活動や取り組みの内容をアピール!
- 10/20(土) 校区人権フェスタにおいて、男女共同参画や活動を紹介したパネルを展示
- 10/28(月) 町内の秋まつりにてポスター展示
- 10/31(水) 料理教室を主催し、男女協メンバーを講師とした料理づくりと会食を実施(入部校区 上村 義行)



各校区の男女共同参画推進組織では、下記の宣言に則り「校区活動に男女共同参画の視点をもたらすこと」を目指して活動しています。

早良区男女共同参画をすすめる宣言

- ①地域で「男女共同参画について考える機会」を提供し、個々の意見を尊重・共有する。
- ②学びと気づきに努め、その成果は発信する。
- ③公民館や校区の各団体の皆さんとの連携に努める。
- ④自治協議会の一員として、「男女共同参画の視点」から、校区行事を盛り上げる。

NWEC (国立女性教育会館: National Women's Education Center) 男女共同参画推進フォーラム「つなぐ、あらたな明日へ」

～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～ 参加レポート

◎日時・場所 8月30日(木)～9月1日(土) 国立女性教育会館(埼玉県比企郡嵐山町)

◎プログラム

特別講演「すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会を創る」

講師: 国谷 裕子さん(東京藝術大学理事、元NHKクローズアップ現代キャスター)

シンポジウム「新しい暮らしのカたち ～働き方×幸福度～」

…“幸福生活”の焦点を当て、男女共同参画の視点から新しい暮らしのヒントを探る

ワークショップ・パネル展示…約50件のワークショップ開催

映画上映会「ベアテの贈りもの」

多世代ワールドカフェ 200人会…「LGBTを取り巻く状況」など

講演会やワークショップなど様々な学びを通して、多様性の尊重や、個性と能力が発揮できる、一人ひとりがイキイキと輝く地域づくりについて考えた3日間でした。

特に、個人レベルから団体まで、様々な実施主体が男女共同参画の視点に立つて行う約50件のワークショップでは、全国の有志の提案力と発信力、そして使命感とパワーに驚かされました。

多くの方々と出会い、交流し、新しい刺激と元気をもらうことができました。この学びを男女協メンバーとして、地域活動に還元・貢献できるよう努めてまいります。ありがとうございました。

(小田部校区 前村 久美・入部校区 上村 義行)



日本女性会議2018金沢 参加レポート

1984年の初開催から、今年で35回目を迎える日本女性会議。今年も10/12、13、14の3日間、石川県金沢市で開催され、約2,000名が集いました。私も1日目と2日目に参加しました。

2日間で基調報告・9つの分科会・交流会とハードなスケジュールをこなしました。特に、「防災・まちづくり」の分科会では、平時から被災者に寄り添うことを想定し、女性防災士の養成に努めている金沢市の取り組みが紹介され、講師から、国内外の被災地の被害状況、避難所の様子などを調査・分析した結果など踏まえ、防災の今後の課題として①被災後の暮らしを守る権利・仕組みの広報・周知、②避難所が「つながり、心安らぐ」場所であるための工夫と努力、③平時の男女共同参画の視点に立った防災訓練の重要性等について説明がありました。

その後、地元金沢市の高校生の防災への取り組みのビデオが紹介され、4人の高校生がグループ活動の中で防災について真剣に考えていることがよくわかりました。金沢市のおもてなしと研修と大変有意義で濃い内容の2日間であったと思います。

(室見校区 江藤 みどり)



男女共同参画で地域力UP! 「女性議員を増やせる法律ができたよ。えっ日本に!」

～世界の女性議員急増の謎に迫る～ 参加レポート

10月20日(土)、アミカス市民グループ活動支援事業として“男女共同参画で地域力UP!”をテーマに講演会が開催されました。主催はアミカスを拠点に活動している20数団体に七区男女共同参画協議会が加わって結成された“参画ネット”です。

今年5月、「政治分野における男女共同参画推進法」が制定されました。法的整備がなされたわけですから、実際に女性の政治家が増えていかなければなりません。現状では国会議員の女性比率は、世界191か国中157位。

福岡市議会議員の女性比率は、政令指定都市20市の中で最下位です。法律を実効あるものにしていかなければという思いから、今回の企画となりました。

講演は申琪築(シンキョン)さん(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授)、現地報告を王貞月(オウテイゲツ)さん(大学非常勤講師・国際文化博士)がされました。韓国、台湾では、なぜ女性議員を増やすことできたのか? お二人は「政治は身近なものですよ」、「変えるのは皆さんです」と訴えられました。さらに、女性議員が増えた背景には、政党のとりくみ、クォータ制の導入、男女同数(パリテ)の実施があったということです。

日本でも法律ができてから、各政党は男女の候補者数をできる限り均等に、議会は男性も女性も働きやすいように環境整備することが求められ、女性や若者を対象とした政治スクールなど、前向きな姿勢が見られるようになりました。

地域活動における女性の活躍も同じではないでしょうか。“いい町にしたい”と願うのであれば、町内会や自治協議会の役員になろうとまず決断する、その決断を支える仲間をつくる、そして活動しやすいように環境を整える。「政治分野」とは活躍する場面が違いますが、男女共同参画を実践するという点では同じだと思います。

(田村校区 緒方 豊子)



男女共同参画の
視点で観る

～男女共同参画をすすめる会の活動紹介～

映画「チョコレート ドーナツ」上映会

11月10日(土)、障がいがあり、育児放棄された子どもと同性愛者の男性カップルの実話に基づく映画の上映会を行いました。

性的マイノリティや障がい者への根強い偏見や差別。法律さえも時に味方となってくれない厳しい現実の中でも、自分の気持ちに正直に、ラストのラストまで前に向かおうとする3人の姿が涙を誘わずにいられますでした。

悲しみに包まれたラストでしたが、男の子(マルコ)に向ける男性カップル2人の母親のような眼差しを見ていると、性的マイノリティや障がいを正しく理解することの大切さ、多様性を尊重することの大切さ、そして「心から幸福な家族」の姿が必ずしも一つではないことなど、色々と考えさせられた映画でした。

(野芥校区 上原 緑)

